



大手の浜で生息するサンゴ

めぐみの海

---水の旅⑤

豊かな海岸線は

昔は海岸に松原があり、ソフトボールができるほど広がった砂浜が、物部川にダムができて土砂が流れてこなくなつたため、海岸の砂は波によって沖へと運ばれてしまい年々狭くなつてきています。

現在もウミガメが上陸する浜辺ではありますが、昔ほど産卵も見られないそうです。

サンゴの海

夜須の海はアワビやハマグリ、エビなど海の幸がたくさん取れる豊かな海でした。

今では魚介類は少なくなりましたが、大手の浜にはサンゴの群集があり、サンゴを住みかにする熱帯魚の姿も多く見られます。一昨年には沖縄など温かい地域に生息する南方系の

ハナガササンゴの群なども確認されたばかりです。

サンゴには植物プランクトンの藻が共生しており、森の木のように光合成を行います。炭酸ガスを取り込み酸素を発生させますが、そのためには光が必要で、海面が泥や土などで濁っていると光が届かず、サンゴは息ができません。

川からの濁水もサンゴには天敵なのです。

大手の浜のサンゴたちは、海岸の保全や環境学習に力を入れていて、大手の浜なぎさの会による育成状況の定期的なチェックや砂浜と海底の清掃などに協力してくれる人々の活動で守られています。



6月1日に赤岡海岸で、コスモ・アース・コンシャス・アクト・クリンキャンペーン・香港が開催され、市内外から参加した約600人が1.6トンのゴミを拾い、海岸をきれいにしました。

私たちの海 いのちの海

大手の浜なぎさの会 代表
前田 些代子 さん(夜須町)



夜須小学校は毎年、春の遠足で塩谷海岸を訪れているそうです。小さいころからたくさん歩いて自然とふれあい、地域の良いところを見つけて欲しいものです。

海をきれいにするには、川をきれいにしなくてはなりません。そのために川や海にゴミを捨てない、逆に海岸では打ち上げられたゴミを拾うようにしてほしいと思います。海岸によその町名の入ったゴミ袋が落ちているのを見るのはとても残念です。

海的环境が良くなれば、さらに魚の味も良くなり相乗効果が図れます。先人たちが守ってきたこの海を子どもたちに受け継がせていきたいと思っています。

旅の終わりに

みんなのちからで

市内各地では川や海の清掃が行われています。

6月1日(日)には赤岡海岸で、海岸をきれいにしよう!と漁協周辺と海岸の清掃に約600人が参加し、ポイ捨てにされたゴミ、流れ着いた流木などを拾いました。

6月26日(木)にはヤ・シーパーク園内の一斉清掃が行われ、7月の海開きに備えて準備が進んでいます。7月13日(日)にも「物部川21世紀の森と水の会」などが主催する吉川漁港海岸清掃が予定され、身近に参加できる清掃活動などは、水環境を考えるきっかけになっています。

…海岸に流れ着いたゴミの大半は川の水とともに流れてきたものです。

豊かな川や海は上流の山がはぐくみ、そして私たちの生活に生かされます。

子どもたちの未来のために昔の美しい自然を受け渡していくことが、現在を生きる私たちの役割なのではないでしょうか。

一滴の水が空から降って山に染み込み川となり下って海に注ぐまで大地を満たし人々の生活を潤すキラキラ輝く海をみてよろこぶ子どもたちの笑顔を守るために

美しい水を汚すことなく循環させる方法を自分たちができることを考えてみませんか?

